（別紙様式３）

令和４年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　宮崎市橘通東１丁目９番１０号
管理機関名　宮崎県教育委員会
代表者名　　教育長　黒木　淳一郎

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を下記のとおり報告します。

記

１　事業の実施期間
令和３年４月１日（契約締結日）～令和４年３月３１日

２　指定校名・類型
学校名　　宮崎県立宮崎南高等学校
学校長名　　富髙　啓順
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

４　研究開発概要
本研究では､地域に根差す人材の育成として身につけさせたい６つのスキルを｢再認識力｣、「情報収集力」、「問題発見力」、「分析力」、「共感力」、「表現実行力」とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。

研究開発Ⅰ　「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成
地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ～Ⅱ」において地域の魅力、地域資源を再認識し、「鵬イノベーションコンテスト」において地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム

研究開発Ⅱ　「地域資源の新しい価値を見出す力(イノベーション力)」の育成
地域資源の新しい価値や課題解決の方法を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム

研究開発Ⅲ　「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成
課題研究を通して得られた成果を、地元の企業・大学・行政に提案し、自己実現の場として捉える生徒を育てる研究プログラム

各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下三つの柱）を本校が生徒に身につけさせたい６つのスキルをもとに育成する。

5　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設していない

・教育課程の特例の活用　　活用している

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
矢野　健二	宮崎国際大学・地域連携センター長・大学部長	
徳地　慎二	宮崎産業経営大学・高大連携センター長・法学部教授	
青山　桂子	宮崎市青少年育成連合会・事務局長	
嶋末　　武	有限会社嶋末塗装店・代表取締役	

7　高等学校との地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮崎市	市長　　戸敷　正
宮崎県教育委員会	教育長　　黒木　淳一郎
宮崎市教育委員会	教育長　　西田　幸一郎
宮崎大学	宮崎大学学長　　池ノ上　克
宮崎空港ビル株式会社	代表取締役社長　髙屋　靖夫
宮崎県男女共同参画センター	所長　　山田　成美
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	会長　　中川　雄一
道本食品株式会社	代表取締役社長　道本　英之

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	添田　佳伸	宮崎大学教育学部・教授	都度依頼し 謝礼支払い
海外交流アドバイザー	無し	無し	無し
地域協働学習支援員	相田慎一郎	企業組合ライオン堂・代表理事	都度依頼し 来校

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
業務月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○							○	
コンソーシアム会議				○					○			○
ＭＳＥＣ連絡協議会		○					○			○		

（2）実績の説明

Ⅰ　管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

① 運営指導委員会の活動日程・活動内容について

活動日程	活動内容
令和３年７月２６日 第１回 運営指導委員会	・実施内容の説明と本年度の取り組み計画について説明。 ・昨年度からの改善点を報告 ・探究学習と学力向上の関係性についての協議 ・オンラインにおける活動について協議
令和４年２月１７日 第２回 運営指導委員会	・来年度以降の取組について指導助言 ・地域に寄り添った体制の重要性について確認 ・生徒の探究活動の向上について協議 ・来年度以降のサポートを確約

② コンソーシアム会議の活動日程・内容について

活動日程	活動内容
令和３年４月１５日 宮崎大学担当者との会議	・今年度実施の課題研究についての内容確認 ・運営体制、連絡体制の構築及び確認 ・課題研究班の構成（人員・テーマ選定、指導内容など）
令和３年４月２７日 宮崎市役所との企画会議	宮崎市役所との今年度事業企画会議 ・実施企画の提案、内容確認、総合的な探究の時間の計画 連携内容確認
令和３年６月２日 宮崎県総合政策課との協議	「宮崎の新しいゆたかさ指標」を用いた地域活性化政策の取組について ・「新しいゆたかさ指標」と本校実施の「宮崎南×ＳＤＧｓ」についての確認
令和３年７月８日 第１回コンソーシアム 企画運営委員会	・今年度実施事業内容の説明、総合的な探究の時間日程説明、取組計画についての協議 ・連携大学、企業との内容確認
令和３年１２月２２日 第２回コンソーシアム 企画運営委員会	・今年度事業の報告、課題研究大会及び鵬イノベーションコンテストの内容説明 ・来年度へ向けての連携体制の検討
令和４年３月２３日 第３回コンソーシアム 企画運営委員会	第３回会合 ・来年度に向けて連携体制決定事項の確認

③ カリキュラム開発専門家の活動日程・内容について

活動日程	活動内容
令和３年　４月（第１回）	昨年度の反省と今年度のカリキュラムマネジメントについての目標・計画・方法・内容等についての説明及び検討
令和３年　７月（第２回）	６月までの取組についての意見交換会 ・昨年度からのブラッシュアップした点に対する協議
令和３年１２月（第３回）	１年鵬イノベーションコンテストと２年課題研究発表会において、その成果から今後の課題について協議
令和４年　３月（第４回）	次年度のカリキュラム計画についての指導助言

④ 地域協働学習実施支援員の活動日程・内容について

日程	内容
令和３年　７月	キャリア教育に関する打合会出席 ・本年度活動計画についての協議、鵬ドリカム講座の講師選定に関する協議役割分担割り振り
令和３年　８月	鵬ドリカム講座の開催についての協議 ・実施形態（オンラインでの実施について） ・同窓会との連携
令和３年　９月	・開講希望調査結果報告 ・実施場所、担当教員の振り分け ・講座受講生徒への指導
令和３年１０月	令和３年度　鵬ドリカム講座実施
令和３年１２月	来年度以降の取組について協議
令和４年　２月	・来年度の取組について同窓会による協議 ・来年度以降のサポート体制についての協議

Ⅱ　管理機関による主体的な取り組みについて（コンソーシアムによる取組も含め記入すること）

○コロナ禍において、宮崎市と生徒が企画したイベントが中止となる中、計画した内容が反映できるようにＣＭ作成や宮崎市へ絵画寄贈などのサポートを実施した。

○探究活動において経済的視点を養うため、金融関係の企業に対し、生徒への指導助言を依頼した。

○指定校において実施された成果報告会（第１学年：鵬イノベーションコンテスト、第２学年：生徒研究発表会）では、当日の運営や生徒への指導助言等においてコンソーシアム組織員による全面的な支援を行った。

○ポスター作成能力向上の為の指導者、生徒向けポスター作成研修会を実施した。

○ＭＳＥＣ（宮崎ＳＤＧｓ教育コンソーシアム）では３回の協議会を実施、他校職員との意見交換、研修等を行った。

Ⅲ　国費に上乗せした独自の支援や取組の実施　　無し

Ⅳ　継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮　等　　無し

Ⅴ　高等学校と地域との協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

機関名	次年度	機関名	次年度
宮崎市	未定	宮崎県男女共同参画センター	継続
宮崎県教育委員会	継続	道本食品株式会社	継続
宮崎市教育委員会	未定	宮崎産業経営大学	継続
宮崎大学	継続	宮崎国際大学	継続
宮崎空港ビル株式会社	未定	宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	継続

Ⅵ　事業終了後の自走を見据えた取り組みについて

MSEC（宮崎 SDG s 教育コンソーシアム）の加盟校として支援

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

研究開発	業務項目	実施日程（　）は予定											
		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
Ⅰ	地域学Ⅰ		３回	３回	２回								
	地域学Ⅱ							１回					
	進路探究							５回					
	鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ				１回		２回	４回	１回	２回	２回	１回	
	鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ研究発表会									１回			
	次年度課題研究に向け										２回		
Ⅱ	地域課題研究計画		３回	３回	２回								
	計画発表				１回								
	地域課題研究					３回	２回	３回	１回				
	中間発表							１回					
	起業講座							１回					
	進路探究								２回				

	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ資料作成								2回	2回			
	研究発表会									1回			
Ⅲ	成果発信				1回								(1回)
	成果発進							4回	2回	2回			
その他の活動	探究推進委員会	4回	3回	1回	2回		2回	2回	1回	3回	1回	1回	(2回)
	地域課題研究職員研修	3回	4回	3回	1回	1回		1回	3回				
	ｺﾝｿｰｼｱﾑ企画運営委員会				1回					1回			(1回)
	運営指導委員会				1回							1回	

（２）実績の説明

Ⅰ　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

学年	研究開発	題目	実施内容
1	Ⅰ	地域学Ⅰ (宮崎南×SDGs)	世界、日本そして地域の現状を SDGｓを通して学ぶプログラム。コンソーシアムの助言の下、本校職員が指導した。
		地域学Ⅱ	宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会(鵬同窓会)を通じて紹介した。
		進路探究	生徒に進学先としてどのような学部学科があるか紹介した。
		鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ	各地域の企業、行政、団体からのテーマを元に課題解決に取り組んだ。
		鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ 研究発表会	各地域の企業、行政、団体からのテーマを元に課題解決に取り組んだ内容を、各団体の代表者に向けて発表した。
		次年度に向けて	来年度実施する課題研究について事前学習を行った。
2	Ⅱ	地域課題研究計画	地域課題研究の実施に向けて年間計画を立てた。
		計画発表	有識者からの意見をもとに、立てた研究計画の軌道修正を行った。
		地域課題研究	計画発表による修正を経て、研究開発を行った。
		中間発表	有識者からの意見をもとに、研究の軌道修正を行った。
		起業講座	宮崎大学が実施するビジネスプランコンテストに参加（オンライン）し、新たにビジネスに関する視点を学んだ。
		進路探究	自らの探究活動と進路との関係について深化させた。
		ﾌﾟﾚｾﾞﾝ資料作成	事前に職員、生徒研修会を実施した後、プレゼンテーション、ポスター制作等を行った。
		研究発表会	ポスターセッションによる研究成果の発表を行った。
		成果発信	県の実施する課題研究大会等に参加し、成果を発表する。
3	Ⅲ	成果発信	本県で実施している MSEC フォーラムに本校より、日本語部門に１１班，英語部門に１班参加した。英語部門においては見事１位を獲得した。
		成果発進	課題研究で学んだことを自分たちの進路に活かした。
	その他の活動	探究図書委員会	地域魅力化型開発の総務として各教科、各部会に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図った。
		地域課題研究職員研修	本校の探究活動について１回。地域学Ⅰ（宮崎南×SDGｓ）についての７回。鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄの研修１回。２年生徒研究発表概要について３回。２年計画発表について１回。２年中間発表について１回。ポスター研修について２回。
		コンソーシアム企画運営委員会，運営指導委員会は９（２）①，②参照	

Ⅱ　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

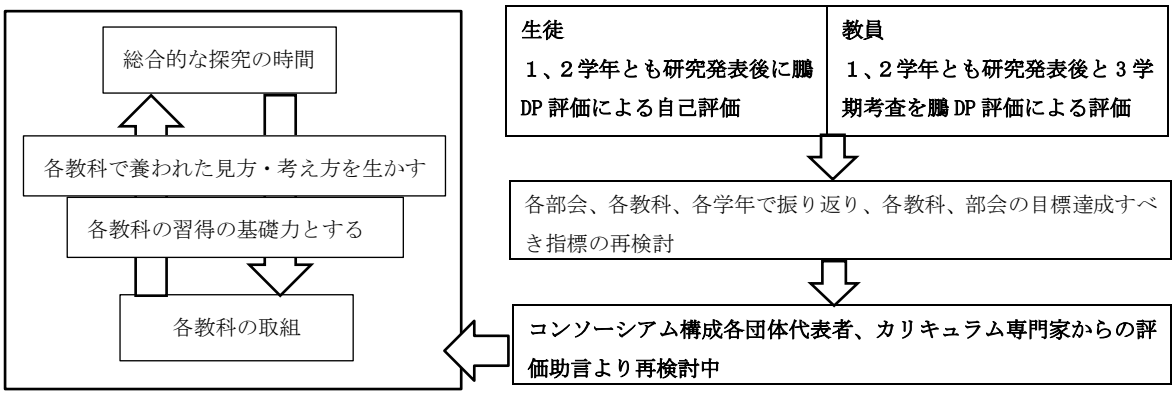
学年・学科 位置付ける教科等	1学年		2学年	
	普通科	ﾌﾛﾝﾃｨｱ科	普通科	ﾌﾛﾝﾃｨｱ科
総合的な探究（学習）の時間	1	2	1	3
探究基礎情報	2	2	0	0

Ⅲ　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組について

○６つのスキルを基にした共通表評価基準の改善

○共通評価基準を基にした各教科の指導に対する研修。

Ⅳ　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制



Ⅴ　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

	地域探究推進委員（9人）	全職員
役割	①カリキュラムの開発の協議 ②地域に根差す人材育成としての企画を提案し各部会、各教科に実行を依頼 ③本研究の企画､改善をｺﾝｿｰｼｱﾑ構成各団体代表者と協議	①地域探究推進委員からの企画を部会、教科、学年で協議、実行可能案を作成し実行する。 ②地域探究推進部の提案について､それぞれの視点から評価改善を提案
支援	・カリキュラム開発専門家より開発アドバイス ・カリキュラム開発のために地域創生研究先進校の視察や有識者による助言をもらい全職員にノウハウを普及 ・加配が認められた場合、加配教員による補助 ・地域探究推進部増設のため各校務分掌を再編し、校内体制を整えた。	・カリキュラム開発専門家によるカリキュラム開発の研修の実施 ・それぞれの企画に対する成果を職員会議で検討し､多方面から生徒指導ができる体制を確立 ・放課後３０分の指導時間を確保する。

Ⅵ　カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて　　都度依頼（活動内容は９（２）③，④参照）

Ⅶ　学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進捗管理、計画・方法	実行時期
改善方策の執行管理システムとして、ＰＤＣＡサイクルに基づく進捗管理の仕組みを位置づけ、持続的なサイクルを通じた成果の追究を行う。また、ＣＨＥＣＫ（評価）については、「表１本校が身に付けさせたい６つのスキル」と研究開発中の教育指標を用い、各研究開発の題目において達成すべき目標を数値化することで達成の確認を行う。	探究図書委員会において週に１回実施した。また、学期に一度探究図書部において改善を検討した。

Ⅷ　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

○　今年度実施した３回のコンソーシアム会議において、カリキュラム開発を行った。

○　昨年度までのカリキュラムに関する内容の検討や改善について協議を行った。

Ⅸ　運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

○　運営指導委員会での指導助言の他、第２学年生徒研究発表会において審査員として参加頂き、指導助言を頂いた。

Ⅹ　類型毎の趣旨に応じた取組について　　特になし

Ⅺ　成果の普及方法・実績について

○成果の普及方法について

・令和元年に学校 HP とは別に「宮崎南高等学校地域協働事業」の HP を開設。

・鵬イノベーションコンテスト及び生徒課題研究発表大会の案内配布、他校への支援。

・みやざきのボランティア・市民活動を応援し SDG s を推進する情報誌「ミヤザキ大作戦」春号～冬号４季連載

１１　目標の進捗状況，成果，評価

①　目標設定シートにおいて掲げた１０項目のうち、目標を達成できたのは２項目であった。達成できていない項目も含め、今後も目標達成に向けて実施内容を改善していかなければならない。特に１の e「郷土への愛着や誇りを持てる生徒の割合」が低下傾向にある。今年度１学年より地域学Ｉを変更した。その成果が来年度の結果で見られるので来年度の結果によっては地域学Ｉの更なる改善が必要と考える。

＜添付資料＞目標設定シート

②　１学年「鵬イノベーションコンテスト」研究発表会後の外部審査員による鵬ＤＰ評価と２学年「生徒研究発表大会」研究発表会後の外部審査員による鵬ＤＰ評価について

評価は４段階（Ｓ：４、Ａ：３、Ｂ：２、Ｃ：１）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

〈１学年〉

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力	採用したい度
R1	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	
R2	3.0	2.8	2.6	2.8	2.8	2.8	
R3	2.8	2.7	2.7	2.9	2.8	2.8	3.1

〈２学年〉

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
R1	2.30	2.50	2.30	2.30	2.50	2.40
R2	2.56	2.56	2.57	2.42	2.46	2.52
R3	2.59	2.65	2.57	2.51	2.57	2.69

上記の結果より、１学年は令和元年度から２年度においてすべての項目において外部評価が昨年度より上昇していたが令和３年度にかけては大きな伸びは見られなかった。２学年は、外部評価は年々上昇した。生徒の成長が見られる結果となった。

１２　次年度以降の課題及び改善点

Ⅰ　本事業に関する管理機関の課題や改善点について

①　次年度より、全生徒が授業において個人端末を使用するようになる。ＩＣＴ環境が大きく改善されることになるが、生徒だけでなく職員に対しても探究活動におけるＩＣＴ機器の効果的な活用法などの研修を実施、充実させて行く必要があると考える。

②　３年間を通して、探究活動のノウハウを職員が蓄積できた。しかしながら、職員の負担は増加したように感じられる。職員の負担軽減につながるようなプログラムの開発ができるよう、今後もさらにブラッシュアップできるよう支援の必要がある。

③　探究活動が、生徒の進路実現にどの程度の効果的であるか、影響があるかを測る評価法の確立が難しかった。この活動によって、生徒が目標とする進路を、どの程度達成できているか数値化できる方法を検討する。

Ⅱ　研究開発にかかる課題や改善点について

学年	研究開発	題目	課題	改善点
1	Ⅰ	地域学Ⅰ，Ⅱ，鵬イノベーション研究発表会は本年度通りの実施を計画中		
		鵬ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ	次年度より情報の授業との連携時間が短縮予定であるため、時間を確保をしなければならない。	次年度より生徒の個人端末を授業で導入により、総合的な探究の時間においても端末を利用した活動が可能となる。このことにより、多方面での時間が短縮できると考える。
2	Ⅱ	計画発表，中間発表，起業講座，進路探究，プレゼン資料作成は本年度通りの実施を計画中		
		地域課題研究計画	地域課題研究を中心に取り組んだため、グローバルな視点を養う機会が乏しかった。自分たちの地域と国内外の他の地域との違いについても比較し考える視点を養っていかなければならない。	地域の価値が日本、そして世界にどのように役立っていくのか考えさせる課題研究を実施する。
		地域課題研究	本年度は、昨年度の反省を活かし夏季休業中に１日探究活動の日程をいれたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、校内での活動に留まった。	生徒の個人端末を授業で導入することに伴い、多くの地域の人々との探究活動がオンラインで容易に行うことができるようになる。そのためオンライン活用についての指導を充実させる。
		研究発表会	①昨年は審査方法に課題が残り、発表会が長引いたが、今年度は審査方法を電子システム化した。そのため、非常にスムーズであった。 ②一斉発表のため、生徒の声が聞き取り辛いとの意見が多く見られた。	①今年度の審査方法を継続していく。 ②分散開催などを計画する。
3	Ⅲ	成果発信	昨年度の課題であった学校間の交流は改善できたが、外部が開催している発表会への出品数をどう増加させるかが課題である。	目標とする大会を決めて取り組むなどの改善を図る。
その他活動		探究推進委員会，地域課題研究職員研修は本年度通りの実施を計画中。		

Ⅲ　自走に向けた方向性について

第２回コンソーシアム会議、第２回運営指導委員会にてほとんどの機関から次年度以降も支援を頂くことを確約できた。また、資金についても宮崎県立宮崎南高等学校同窓会からの補助を受けることにより、次年度以降も本年度と変わらぬ実施体制が確立された。これらのことより、次年度以降も更なるブラッシュアップが期待できる。

【担当者】

担当課	高校教育課	ＴＥＬ	０９８５－４４－２６０１
氏　名	重永　信祐	ＦＡＸ	０９８５－２６－０７２１
職　名	指導主事	e-mail	sigenaga-nobuhiro@pref.miyazaki.lg.jp